

富山県農業共済組合事業報告書

令和2年度（令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）

（1）農作物共済関係

（引受）

年産	共済目的	組合員数	引受面積	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A) + (B)
		人	a	円	円	円	円
令和2年産	水稲	13,407	3,543,449	27,015,939,844	15,675,543		
	前年度比	△ 1,220	△ 166,551	△ 605,938,541	2,873,676		
	麦	470	302,820	948,900,847	36,427,670		
	計	延 13,877 実 13,179	3,846,269	27,964,840,691	52,103,213	43,611,445	95,714,658
	令和3年産	麦	420	277,267	822,989,791	30,461,416	
	前年度比	△ 50	△ 25,553	△ 125,911,056	△ 5,966,254		

（被害）

共済目的	被害 組合員数	共済金	共済金 共済金額
	人	円	%
水稲	215	27,048,782	0.1
前年度比	△ 246	△ 69,890,932	△ 0.3
麦	234	73,566,532	7.8
前年度比	46	18,883,032	2.5
計	延 449	100,615,314	0.4

（支払）

共済目的	支払月日	実支払共済金	共済金支払財源					実支払 共済金
			保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	
		円	円	円	円	円	円	%
水稲	令和2年12月1日							
	令和2年12月28日	27,048,782		27,048,782			0	100.0
麦	令和2年7月30日	73,566,532		64,701,983			0	100.0
	令和2年12月1日							
計		100,615,314	0	91,750,765	8,864,549	0	0	100.0

水稲

（引受）

引受面積は、収入保険への移行や水田の改廃や転作の深掘りなどにより、前年に比べ1,666ha減少し、35,434haとなった。引受戸数は担い手等の面積集積が進み、1,220戸減少し、13,407戸となった。

（被害・作柄）

田植後の気温が高く、日射量も多かったため初期生育は順調に推移した。6月11日ごろの梅雨入りからの長雨、日射量不足が影響し、出穂期は平年より3日遅い8月5日、成熟期は平年並みの9月10日（コシヒカリ）となった。北陸農政局富山県拠点による作況指数（農家篩目ベース：1.90mm）は103の「やや良」で、収量は535kg/10a（前年産比7kg増）となった。被害状況ではカメムシ類の加害により斑点米が発生し品質の低下が見られた。また、梅雨期間の低日射により草丈や稈長が伸長したことに加え、8月中下旬の豪雨の影響で倒伏の被害が発生した。中山間地においてはイノシシや猿による踏み荒しや食害による被害が発生したが、平年に比べ少ない被害となった。

麦

（引受）

令和3年産麦の引受面積は前年産より256ha減少し2,773haとなり、前年より50戸減少し420戸となった。

（被害）

播種・発芽期の10月中旬以降の降雨量がかなり多く、土壌湿潤害による根腐れが発生し、出芽・苗立ち不良となった。また、この降雨の影響により播種の遅れたほ場では初期生育の遅れから莖数不足が発生し、収穫期において穂数が少なく減収した。

（損害防止）

1. 組合員が事故の未然防止又は軽減を図るため必要な薬剤等の購入経費の一部として45,053,418円を交付した。（内訳：水稲37,180,284円、麦7,873,134円）
2. 鳥獣害防止対策支援事業として未然防止を行った組合員等（120件）に対して7,442,200円を交付した。
3. 本県水稲の主要病害虫である、いもち病、紋枯病、ニカメイチュウ、ウンカ類、カメムシ類等による災害の未然防止を図るため、予察灯調査（21ヵ所）、病害虫定期定点（すくいとり等）調査ほ（47ヵ所）を設置し、調査資料に基づく地域ごとの予報・情報等により、適正な肥培管理と損害の未然防止を行った。
4. 気象災害を未然に防止するため、NOSA I 気象情報（県内21ポイント）の提供を行った。

(2) 家畜共済関係

(引受)

区分	項目	組合員数	有資格者数	事業計画数	引受頭数		引受頭数 事業計画頭数	共済金額	徴収共済掛金	納入保険料	交付金	手持共済掛金
					区分	頭						
死	搾乳牛	32	1,415	1,650	一般	1,849	117.3	672,741	26,137,092			
					変更	87						
亡	育成乳牛 (子牛等)	31	546	830	一般	882	110.1	321,941	1,967,248			
				(60)	変更	32 (△15)						
廃	繁殖用雌牛	12	554	460	一般	418	90.9	126,296	1,326,990			
					変更	0						
用	育成・肥育牛 (子牛等)	37	2,480	3,530	一般	3,555	99.7	1,047,797	15,328,521			
				(330)	変更	(312) △ 35 (△31)						
共	種 豚	2	1,707	710	一般	528	69.4	34,254	2,326			
					変更	△ 35						
済	肉 豚	4	17,579	9,750	7,236		74.2	85,332	19,134			
					種 雄 牛	0						
済	計	118	24,281	16,930	一般	14,468	85.7	2,288,361	44,781,311	0	44,696,907	89,478,218
					変更	49						
疾	乳用牛	33	1,961	1,830	1,843		100.7	36,163	11,547,892			
					肉用牛	36						
病	種 豚	0	1,707	0	0		-	0	0			
					種 雄 牛	0						
傷	計	69	6,702	4,080	4,153		101.8	54,959	12,940,894	0	11,164,890	24,105,784
					種 雄 牛	0						
合 計		187	30,983	21,010	18,670		88.9	2,343,320	57,722,205	0	55,861,797	113,584,002

(引受)

死亡廃用共済では、令和元年度引受分の期末調整(変更)を行った。令和2年度期首の引受(一般)は死亡廃用共済では、計画に対し搾乳牛は199頭の増、育成乳牛は52頭の増、繁殖用雌牛は42頭の減、育成・肥育牛は25頭の増、種豚は182頭の減、肉豚は2,514頭の減となった。疾病傷害共済では、計画に対し乳用牛は13頭の増、肉用牛は60頭の増となった。

(事 故)

区 分	死 亡 廃 用 共 済				区 分	疾 病 傷 害 共 済	
	死亡頭数	廃用頭数	総頭数	支払共済金		件数	支払共済金
	頭	頭	頭	円		件	円
搾乳牛	156	19	175	48,301,466	乳用牛	2,263	30,634,586
育成乳牛 (子牛等)	30	0	30	4,683,192	肉用牛	1,303	12,360,626
	(23)						
繁殖用雌牛	3	2	5	928,585	種豚	0	0
育成・肥育牛 (子牛等)	133	14	147	28,669,555	種雄牛	0	0
	(87)						
種豚	0	0	0	0	計	3,566	42,995,212
肉豚	0	0	0	0			
種雄牛	0	0	0	0			
計	322	35	357	82,582,798			

(事 故)

死廃事故では、乳用牛等で26頭の減、肉用牛等では13頭の増となり合計で13頭の減となった。支払共済金は、令和元年度引受の期末調整分を含めて285万円の増となった。種豚および肉豚については、事故除外方式での加入のため、死廃事故の対象となる事故は発生しなかった。

病傷事故では、乳用牛等で68件の増、肉用牛等では449件の増となり、支払共済金は、270万円の増となった。種豚については事故除外方式での加入のため、病傷事故の対象とならなかった。

令和2年度家畜共済損害防止事業

(損害防止)

実施項目		対象頭数 又は回数	経費	摘要
一般損害防止事業	医薬品配付	頭	円	医薬品名： ボバクチン、AD3E、パンカルG散、ビオエンチ、カウストン、ビタロング、パコマ、ネオヨジン、ウルソ散、セファゾリンDC、ネオハエシート、ネポレックス、金鳥ETB乳剤、アイアン200、S&Aイーストカルチャー
		乳用牛等 1,825	519,103	
		肉用牛等 2,247	416,405	
		種豚 705	36,520	
		肉豚 9,744	104,940	
	計 14,521	1,076,968		

(損害防止)

一般損害防止事業として組合員へ医薬品を配付した。

家畜診療所では、通常の診療業務や人工授精のほか、伝染病予防注射を実施した。

(家畜診療所)

獣医 職員数	管内		診療件数		その他	
	有資格頭数	加入頭数	共済事故	事故外	予防接種	人工授精
	頭	頭	件	件	頭	頭
3人	6,702	4,153	754	1,965	2,340	186

(3) 果樹共済関係

(引 受)

① 収穫共済

年度	果 樹 区 分		組 合 員 数	引 受 面 積	共 済 金 額	徴 収 共 済 掛 金 (A)	交 付 金 又 は 納 入 保 険 料 (B)	手 持 共 済 掛 金 (A) + (B)		
			人	a	円	円	円	円		
令 和 元 年 度	半 相 殺 方 式	減収総合方式 (一般方式)	か	き	68	1,662	21,110,000	317,690	11,022	328,712
		小 計			68	1,662	21,110,000	317,690	11,022	328,712
	減収総合方式 (短縮方式)	りんご		33	458	11,340,000	508,683	△ 300,961	207,722	
		ぶどう		1	6	190,000	2,323	△ 855	1,468	
		なし		3	156	2,280,000	44,547	△ 14,266	30,281	
	小 計		37	620	13,810,000	555,553	△ 316,082	239,471		
	特定危険方式 (減収暴風雨・ ひょう雪・凍霜害方式)	りんご		73	3,513	92,860,000	4,001,428	△ 2,136,988	1,864,440	
		なし		106	3,805	150,550,000	1,483,412	△ 307,893	1,175,519	
		小 計		179	7,318	243,410,000	5,484,840	△ 2,444,881	3,039,959	
	計			284	9,600	278,330,000	6,358,083	△ 2,749,941	3,608,142	
令 和 2 年 度	半 相 殺 方 式	減収総合方式 (一般方式)	か	き	64	1,604	20,540,000	289,636	10,056	299,692
		小 計			64	1,604	20,540,000	289,636	10,056	299,692
	減収総合方式 (短縮方式)	りんご		30	416	8,900,000	386,808	△ 228,851	157,957	
		なし		4	166	2,060,000	35,316	△ 11,314	24,002	
		か	き	1	700	6,630,000	158,092	9,336	167,428	
	小 計		35	1,282	17,590,000	580,216	△ 230,829	349,387		
	特定危険方式 (減収暴風雨・ ひょう雪・凍霜害方式)	りんご		66	3,284	82,500,000	3,541,138	△ 1,891,142	1,649,996	
		なし		97	3,359	128,440,000	1,213,570	△ 251,798	961,772	
		小 計		163	6,643	210,940,000	4,754,708	△ 2,142,940	2,611,768	
	計			262	9,529	249,070,000	5,624,560	△ 2,363,713	3,260,847	
前 年 度 比			△ 22	△ 71	△ 29,260,000	△ 733,523	386,228	△ 347,295		

(引 受)

収入保険への移行や廃業などにより、収穫共済の引受面積が71a減少したことから共済金額は、2,926万円の減となった。引受方式別の面積構成比では減収総合一般方式が16.8%、減収総合短縮方式が13.5%、特定危険方式が69.7%となった。

樹体共済は、前年度に対して19戸の減少となったことから、共済金額は1億2,588万円の減少となった。

② 樹体共済

年度	果 樹 区 分	組 合 員 数	引 受 面 積	共 済 金 額	徴 収 共 済 掛 金 (A)	交 付 金 又 は 納 入 保 険 料 (B)	手 持 共 済 掛 金 (A) + (B)
		人	a	円	円	円	円
令和 元年度	りんご	62	1,885	336,270,000	787,766	642,308	1,430,074
	なし	59	2,347	200,010,000	454,430	204,768	659,198
	かき	31	662	25,470,000	17,047	15,010	32,057
	計	152	4,894	561,750,000	1,259,243	862,086	2,121,329
令和 2年度	りんご	57	1,938	286,950,000	753,508	614,292	1,367,800
	なし	48	1,675	127,420,000	235,817	106,202	342,019
	かき	28	579	21,500,000	12,751	11,223	23,974
	計	133	4,192	435,870,000	1,002,076	731,717	1,733,793
前 年 度 比		△ 19	△ 702	△ 125,880,000	△ 257,167	△ 130,369	△ 387,536

(被 害)

① 収穫共済

果 樹 区 分		被 害 組 合 員 数	共 済 金	共 済 金 共 済 金 額	
		人	円	%	
半 相 殺 方 式	減収総合方式 (一般方式)	かき	0	0.0	
	小 計		0	0.0	
	減収総合方式 (短縮方式)	りんご	3	206,900	1.8
		なし	2	250,800	11.0
		かき	0	0	0.0
	小 計		5	457,700	3.4
	特定危険方式 (減収暴風雨・ ひょう害・凍霜害方式)	りんご	0	0	0.0
		なし	94	19,481,300	12.9
		小 計		94	19,481,300
	計		99	19,939,000	7.2

(被 害)

収穫共済のなしにおいて、4月2日、10日、22日に発達した低気圧の影響により冬型の気圧配置となり雹が降り、開花期の花房や蕾が損傷し変形果等が発生する被害を受けた。また、4月3日から29日の間に未明から早朝にかけて降霜害、凍害が発生し結実不良による着果数の減少や奇形果・傷果の被害が発生した。樹体共済では、りんごにおいて令和元年9月23日の台風17号、10月12日の台風19号及び11月18日の低気圧の通過に伴う強風により倒木や折損の被害が発生した。なしについては、胴枯病原菌や木材腐朽菌により、衰弱し枯死する被害が発生した。

② 樹体共済

果樹区分	被害組合員数	認定損害額	共済金	共済金 共済金額
りんご	12人	2,009,699円	1,607,102円	0.5%
なし	2	727,059	581,095	0.3
かき	0	0	0	0.0
計	14	2,736,758	2,188,197	

(支払)

果樹共済保険区分		項目	支払月日	実支払共済金	共 済 金 支 払 財 源					実支払共済金 共 済 金
					保 険 金	手持掛金充当額	法定積立金充当額	特別積立金充当額	その 他	
収 穫 共 済	減収総合方式 (一般方式)	かき	—	0円	円	円	円	円	円	%
	小計									
	減収総合方式 (短縮方式)	りんご	令和3年 2月25日	206,900						
		なし	令和2年12月28日	250,800						
		かき	—	0						
	小計			457,700						
	特定危険方式 (減収暴風雨・ ひょう害・凍霜害方式)	りんご	—	0						
		なし	令和2年12月28日	19,481,300						
		小計								
	計			19,939,000						
樹 体 共 済	りんご		令和2年 7月30日	1,607,102						
	なし		令和2年 7月30日	581,095						
	かき		—	0						
	計			2,188,197						
合 計				22,127,197	12,669,302	3,660,516	5,797,379	0	0	100.0

(損害防止)

組合員が事故の未然防止又は軽減を図るため必要な薬剤等の購入経費の一部として2,787,788円を交付した。また、りんごでは、チャパネアオカメムシ、キンモンホソガの発生予察調査を県内6カ所で実施した。

(4) 畑作物共済関係

(引受)

年度	畑作物区分	組合員数	引受面積	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A) + (B)
令和2 年度	大豆	503	378,631	1,219,827,660	57,475,434	8,079,372	65,554,806
	計	延実 503 503	378,631	1,219,827,660	57,475,434	8,079,372	65,554,806

(被害)

畑作物区分	被害組合員数	共済金	共済金
			共済金額
	人	円	%
大豆	311	201,859,636	16.5
計	延実 311 311	201,859,636	16.5

(支払)

畑作物区分	支払月日	実支払共済金	共済金支払財源					実支払共済金
			保険金	手持掛金充当額	法定積立金充当額	特別積立金充当額	その他	共済金
		円	円	円	円	円	円	%
大豆	令和2年12月28日 令和3年3月30日	201,859,636	120,004,310	65,554,806	8,249	16,292,271	0	100.0
計		201,859,636	120,004,310	65,554,806	8,249	16,292,271	0	100.0

(引受)

引受は、作付面積4,236ha(農林振興センター公表)に対し89.4%の3,786haで、作付面積の減少及び収入保険への移行により前年産に対し約485ha減少した。共済金額は約12億1,983万円となり、前年産より約2億1,536万円減少した。

(損害防止)

組合員が事故の未然防止又は軽減を図るため必要な薬剤等の購入経費の一部として11,737,346円を交付した。

また、大豆の主要害虫であるハスモンヨトウの予察調査を8カ所、ウコンノメイガ、カメムシ等の生育期害虫調査を8カ所、ネキリムシ調査を1カ所で実施し適期防除に努めた。

(被害)

生育初期の6月上旬から7月中下旬にかけて降水量が多かったことから一部のほ場で土壌湿潤害が発生し、生育不良となった。7月下旬の低日射により莢数の不足及び8、9月の高温・少雨により子実の肥大が阻害された影響から栄養の需給バランスが崩れ、青立ち(莢先熟)が発生した。8月上旬より一部圃場においては黒根腐病が発生し株の枯死や莢が着かない状態となり、子実の肥大も阻害され小粒となったことで減収した。一部圃場でサルによる踏み倒し及び食害が発生した。

(5) 園芸施設共済関係

(引受)

施設区分	項目		設置面積	共済価額	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A) + (B)
	組合員数	引受棟数						
ガラス室Ⅰ類	—	—	—	—	—	—	—	—
ガラス室Ⅱ類	27	49	13,868	160,889	137,950	69,806	41,099	110,905
プラスチックハウスⅠ類	—	—	—	—	—	—	—	—
プラスチックハウスⅡ類	799	2,958	553,644	1,740,516	1,504,344	10,403,326	5,062,305	15,465,631
プラスチックハウスⅢ類	4	7	7,411	36,548	29,232	211,180	142,600	353,780
プラスチックハウスⅣ類甲	26	41	12,284	79,366	65,664	231,622	21,704	253,326
プラスチックハウスⅣ類乙	21	34	16,988	126,885	108,074	239,850	△ 10,145	229,705
プラスチックハウスⅤ類	4	5	2,294	15,439	12,351	31,054	27,296	58,350
プラスチックハウスⅥ類	2	22	5,459	24,213	19,361	141,183	16,741	157,924
プラスチックハウスⅦ類	—	—	—	—	—	—	—	—
計	883	3,116	611,948	2,183,856	1,876,976	11,328,021	5,301,600	16,629,621

(被害)

施設区分	被 害			損害の額	共 済 金				共 済 金 額 %
	組合員数	棟 数	附帯施設数		特定園芸施設	附帯施設	施設内農作物	合 計	
ガラス室Ⅰ類	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ガラス室Ⅱ類	11	17	0	1,200,042	997,195	0	0	997,195	0.7
プラスチックハウスⅠ類	—	—	—	—	—	—	—	—	—
プラスチックハウスⅡ類	136	240	0	67,545,682	53,835,013	0	511,780	54,346,793	3.6
プラスチックハウスⅢ類	2	2	0	387,872	310,297	0	0	310,297	1.1
プラスチックハウスⅣ類甲	1	1	0	133,602	106,614	0	0	106,614	0.2
プラスチックハウスⅣ類乙	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
プラスチックハウスⅤ類	1	1	0	18,696	14,919	0	0	14,919	0.1
プラスチックハウスⅥ類	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
プラスチックハウスⅦ類	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	151	261	0	69,285,894	55,264,038	0	511,780	55,775,818	3.0

(支払)

実支払共済金	共 済 金 支 払 財 源					実支払共済金 共 済 金 %
	保 険 金	手 持 掛 金 充 当 額	法定積立金充当額	特別積立金充当額	そ の 他	
円	円	円	円	円	円	%
55,775,818	28,028,053	14,781,770	12,965,995	0	0	100.0

(引受)

戸数加入率70%を目標に、育苗ハウスへの加入推進や制度改正のPR、リスク啓蒙のチラシを配付するなど加入推進を行い、前年度より560棟の増加（戸数加入率57.0%）となった。

(損害防止)

損害防止用資材として、補修テープ等（883,872円）を購入し、組合員に配付した。

(被害)

1月に発生した豪雪による被害は全体被害の85.8%を占め、被害棟数224棟、内全壊159棟、約5,280万円の支払いとなった。

(6) 任意共済関係

① 建物共済

(引 受)

項目 区分	加入 棟数	共 済 金 額 千円	共 済 掛 金		1棟当たり 平均共済金額 千円	任 意 保 険 料 円	保 険 手 数 料 円
			純共済掛金 円	賦課金 円			
計	71,970	1,162,041,670	533,707,231	366,082,902	16,146	290,044,721	100,138,478

上記引受は、年度内満了短期月引受を含む。

項目 種類	加入 棟数	共 済 金 額 千円	共 済 掛 金	
			純共済掛金 円	賦課金 円
総合共済	5,693	56,721,190	102,417,702	32,319,403
火災共済	66,277	1,105,320,480	431,289,529	333,763,499
計	71,970	1,162,041,670	533,707,231	366,082,902

共済掛金等総額 899,790,133 円

任意保険割合	地震等部分	50.0 %
	地震等以外	30.0 %
保険手数料割合	総合共済	19.50 %
	火災共済	39.12 %

※保険手数料の割合は物件等毎に異なるため、平均の割合とした。

(事 故)

事 故 棟 数	加入総共済金額 (イ) 千円	支 払 共 済 金 (ロ)		任 意 保 険 金 円	被 害 率 $\frac{(ロ)}{(イ)}$ %
		火 災 円	風水害等 円		
棟 608	9,053,000	147,532,858	91,235,676	71,662,023	2.6

(原因別事故発生状況)

項目 事故の原因	事故棟数	加入総共済金額 (イ)	支払共済金 (ロ)	任意保険金	被害率 $\frac{(ロ)}{(イ)}$
失火	棟 20	千円 322,500	円 147,532,858	円 44,259,846	% 45.7
落雷	307	5,204,200	30,867,425	9,291,799	0.6
自然災害	188	2,215,700	53,504,214	16,051,195	2.4
その他	93	1,310,600	6,864,037	2,059,183	0.5
計	608	9,053,000	238,768,534	71,662,023	2.6

② 農機具共済

(引受)

区分 項目	加入台数	共済金額	共済掛金		1台当たり 平均共済金額
			純共済掛金	賦課金	
計	台 3,088	千円 10,712,760	円 36,683,486	円 15,265,214	円 3,469,159

(事故)

区分 項目	事故台数	加入総共済金額 (イ)	支払共済金 (ロ)	被害率 $\frac{(ロ)}{(イ)}$
計	台 231	千円 1,318,810	円 30,701,220	% 2.3

③ 保管中農産物補償共済

(引受)

区分 項目	加入戸数	共済金額	共済掛金等		保険料等
			共済掛金	賦課金	
水稻	戸 2	千円 9,000	円 24,150	円 10,350	円 25,698
大豆	1	2,000	3,500	1,500	3,724
計	3	11,000	27,650	11,850	29,422

(事故)

区分 項目	事故件数	加入総共済金額 (イ)	支払共済金 (ロ)	被害率 $\frac{(ロ)}{(イ)}$
水稻	件 -	千円 -	円 -	% -
大豆	-	-	-	-
計	0	0	0	0.0

(引受)

建物共済は共済金額1兆1,620億4,167万円と前年度実績に対し273億9,279万円の減少となったが、近年多発する自然災害に備えた総合共済の推進に努めたことから、総合共済は前年度実績に対し218棟、共済金額で26億5,105万円の増加となった。

農機具共済は、共済金額107億1,276万円と前年度実績に対し、7億7,113万円の増加となった。

(事故)

建物共済の事故については608棟、支払共済金が約2億3,887万円となり、前年度に対し棟数は76棟増となり、支払共済金は約8,924万円の増となった。原因別では落雷が307棟と最も多く、自然災害は前年より164棟の増となった。

農機具共済の事故については231台で、支払共済金は約3,070万円となった。前年度に対し台数で59台の増となり、支払共済金は約600万円の増となった。